

令和6年度第1回地域学校協働活動推進委員会 協議テーマ

協議タイトル

子どもの「確かな学力、健やかな体、豊かな心」の育成に向けた
コミュニティ・スクールのあり方について
～導入後の取組について～

背景・趣旨等

※令和5年度第2回地域学校協働活動推進委員会意見抜粋（コミュニティ・スクールに関する意見）

○学校の教職員は地域参加についてネガティブな発想をもっている教職員が一定数いるが、関わりたいと思っている教職員も一定数いる。全ての教職員が地域と関わることの意義を理解し、事業の有効性を実感できることが重要ではないか

↓

どうすれば、教職員に地域学校協働本部事業の効果を理解していただき、地域と連携することの効果、有効性について理解してもらうことができるか？

※期待される効果 ①子どもの学びを深める ②子どもの課題解決 ③働き方改革

【現状】令和6年度から体制の見直しにより、学校と市町村の導入支援を担っていた、学校地域連携推進担当指導主事の配置が終了

【学校地域連携推進担当指導主事の主な役割】

- ・コミュニティ・スクール導入に向けた支援・事業状況シートの提出、進捗管理
- ・学校やPTA、地域団体等への理解促進と協働体制への支援
- ・地域学校協働活動研修会（ブロック別研修会）の企画運営

【課題】※令和6年度地域コーディネーター研修会より

- ・学校と地域のコミュニケーションが十分にとれていない。
- ・コロナ禍以降、地域と学校との連携が弱まった。

本県の事例

【県内の事例】

- ・年度当初の職員会で教職員に事業を周知、学校運営協議会に全教職員が出席することや、教職員を交えた熟議を行うことで、学校と地域の関わりを理解する機会を設定している。
- ・学校運営協議会の委員が保護者と学校の話し合いに参画することで、保護者、学校の双方にとって心強い存在となり、話し合いがスムーズに進んでいる。また、保護者とのトラブルが減り、時間的、心理的に教員の負担軽減になっている。
- ・各学期末の数日間、全学年の授業を午前中で切り上げる取り組みが定着しており、授業を短縮した分は「放課後子ども教室」の体験活動などでカバーし、住民らが協力して「特別教室」も開講。普段はできない学習、体験の機会を創出している。
- ・地域の方に部活動の指導に入ってもらうことで、教員の負担軽減に繋がっている。
- ・自分を前に出すことが苦手な児童がいたが、地域の方に神楽を教わることで変化があった。神楽保存会から地域での舞を頼まれだし、必要とされることで、自信が持てるようになり、学校も休まなくなった。

関連する本県の施策や基本情報等

※コミュニティ・スクール設置状況（県内小・中・義務教育学校 設置率 100%）7月現在

※地域学校協働本部設置状況（東部・中部・西部管内100%、高知市 100%）10月31日現在

※令和6年度全国学力・学習状況調査結果（小学校・中学校回答）

・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

（強肯定の回答をした割合） 小学校 高知県平均 50.3% 全国平均 36.7%

（強肯定の回答をした割合） 中学校 高知県平均 37.8% 全国平均 28.6%

※県の取組

・令和5年度第2回地域学校協働活動推進委員会の概要を教職員向けの広報誌である高知県教育だより「夢のかけ橋」に掲載。

・高知県地域学校協働活動研修会（全体会）を小中学校課との合同開催